

## 「日本の柑橘農家にあこがれて」

ドルデ・デクスター・マガリャネス（42歳）  
（西予市） 農業従業員から独立



### 1 就農の動機・理由

元々フィリピンの大学で果樹を中心とした農学について学んでおり、政府の支援で栽培技術習得を目的として日本へ来日した。

柑橘のせん定や摘果など先進的な技術を学ぶ中で日本での就農に意欲がわき、研修生を経て独立就農を目指した。

### 2 農業経営の概要

#### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和6年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻) パート1人
経営耕地	樹園地 12a	樹園地 74a	樹園地 94a
経営内容	レモン 12a	温州 30a ポンカン 26a レモン 18a	温州 44a ポンカン 32a レモン 18a

#### ○農業用施設

農業用倉庫 1棟

#### ○主要農業機械

軽トラック 1台

選果機 1台

動力噴霧器 1台

### 3 あしあと

#### (1) 就農までの主な経歴

出身地 フィリピン

職歴

DAR 農業調査員や TPD コーペラティブ  
農協調査員を経て、平成19年より  
NIDEC に勤務。

就農研修歴

無茶々園生産者

(平成20年9月～平成23年9月)

個人農家アルバイト

(平成25年1月～令和6年8月)

就農年月 令和6年9月

#### (2) 就農時の思い

体力は自信があり、研修後も農家さんの手伝いなどをしていたので技術的な不安はそれほどなかった。それよりも、日本はフィリピンに比べ夏が蒸し暑く冬はとても寒いので、作業や生活の中で最初はなかなか慣れず大変だった。

### 4 就農時の取り組み

#### (1) 技術の習得

西予市明浜町の無茶々園にて研修生及び実習生として3年間柑橘栽培の基礎を学んだ。その後一時帰国し、再来日後は個人農家の下でアルバイトをしながら引き続き技術の習得に努めた。

## (2) 資金の準備

就農するにあたり軽トラックの購入や電気柵、ワイヤーメッシュなどを購入したが、すべて自己資金で対応し、大きな投資は避けるようにしている。

## (3) 農地・住宅の確保

住宅については、はじめは研修先の法人の社宅に入っていたが、子供が生まれ手狭になったこともあり家を探していたところ、たまたま近くに倉庫付きで空き家になる物件の情報を得たため、現在はそこを借りている。

農地については、周囲の農家などに相談し、作業効率の良い農地を中心に集めている。

## (4) その他苦労したこと

思ったよりイノシシなどの鳥獣害が大きい。対策しては破られての繰り返しになるが、それらに対する対策が必要になってくる。

また、収穫の時期は人手が不足している。地域内でも取り合いになってくるので、豊作の年は収穫しきれない園地が発生してしまい、どうしてもロスになっている。

## 5 農業経営の特徴

いま栽培しているのは極早生、早生の温州みかんとポンカン、レモンであるが、将来的には収穫時期の分散も考えて河内晩柑などの栽培も考えていきたい。

## 6 これからの夢

まずは自分の園地をしっかりと守っていききたい。おじいちゃんになってもやっていきたいので、無理はせず着実に広げていくとともに、しっかりとお金を取るようになっていきたい。

## 7 成功したキーポイント

現在も無茶々園の栽培講習会や、モノレールなど機械修理の勉強会に参加するようにしている。積極的に学んでいくことはとても大事なことだと思う。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

相談できる人を周りに作ってください。外から来た人などは特にわからないことも多いと思うので、誰かに教えてもらう体制が大事になります。

また、農地を探すときは場所が大切です。良い園地でも家から遠ければ移動に時間がかかってしまうので、無理のない範囲で探してください。

### ○ 指導機関からのひとこと

ドルデさんは母国フィリピンから気候も文化も違う日本に來られて、大変苦労されたことと思います。そのような中で今年度認定新規就農者にもなられ、いつも真摯に農業に打ち込む姿は、これからのミカン産地を支える担い手のモデルとなっています。今後もより一層活躍されることを期待しております。

### 執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班

電話番号 0894-62-0407



ポンカンの選果作業